

## 「小橋勝之助日誌」(二) — 「天路歷程」\*

解説—小橋勝之助の日誌「天路歷程」をめぐって

## はじめに

ここに紹介する「小橋勝之助日誌」は大阪市淀川区にある社会福祉法人博愛社所蔵になるものである。児童養護施設博愛社の創設者小橋勝之助(一八六三—一八九三)は生涯三冊の日誌を残している。我々は「小橋勝之助日誌(一)」(『関西学院大学社会学部研究紀要』一〇三号)において小橋の二冊目の日誌と考えられる一八八七(明治二〇)年八月一二日から九一(明治二四)年一〇月三〇日までの日誌の一部を紹介した。

今回、紹介する小橋の日誌は表紙に「天路歷程」と墨筆で記されているもので、一八九二(明治二五)年二月二一日から同年十二月三〇日までのものである。サイズは縦二〇センチ、横一六センチで和綴八六丁かならっているものである。そして今回、この稿で紹介するのは紙幅の関係で日誌が認められる九二(明治二五)年二月二一日から同五月末日までとしている。ちなみに「天路歷程」と記されているのは、ジョン・バナンの小説に倣い、当時彼が病苦の中にあつて「天の都」への苦難の道中であるという思いに由来しているのかもしれない。

室田保夫<sup>\*1</sup>・鎌谷かおる<sup>\*2</sup>・片岡優子<sup>\*3</sup>

## 一、日誌「天路歷程」の背景

日誌を紹介するにあたり、さしあたり博愛社やこの時期の小橋個人のことについて若干触れて、日誌の背景を瞥見しておくことにしよう。

一八九〇(明治二三)年一月、小橋勝之助の尽力によって播州赤穂の地に創設された博愛社は、翌九一年七月二五日、念願の普通学校を開校した。同年七月二五日の小橋の日誌には「今日は博愛社普通学校の開校式を挙行し終日之れが為め費やせし」とある。しかし開校間もなく岡山孤児院との合併の議が浮上することになり、財産を岡山孤児院に寄附し、普通学校も岡山孤児院の付属となる。

かくて一八九一年一〇月二日に博愛社と岡山孤児院は合併する。そして勝之助の死後、九三年四月二〇日再び両者は独自に歩んでいくことになるが、一年半共同の歩みをしていくことになるのである。この日誌には、博愛社が岡山孤児院との共同歩調の中にあることを先ず念頭に入れて置かなければならない。またこの時期、近代日本災害史の中でも有数のものに数えられる九一年一〇月末の濃尾大震災の勃発とその救済活動も日誌を読み解く背景に入れておく必要がある。周知のように石井は当地に震災孤児院を創設し、孤児救済事業を展開していくが、石井の動向とともに小橋のそれへの関わり等、こうした背景もこの日誌から貴重な事実を読み取ることができるのである。

次に小橋個人に関する身体上のことである。日誌「天路歷程」は九二年一月三日で終わっているが、その約二ヶ月半後に小橋は召天する。そのことを考えれば病気も日々悪化していることは確かなことである。

日誌の最後の段「二月廿六日ヨリ卅一日ニ至ル迄」には「此間八本年中ノ博愛社ノ事業ノ成績ヲ取り調ブル為メ又書翰ヲ認メテ兄弟姉妹ニ送ル、タメ大ニ心ヲ勞セリ之レガ為メニ病氣重ク大ニ苦メリ願クハ来ル明治廿六年一月一日ヨリ精神ノ修養ト肉体ノ療養トニ専ラ力ヲ尽サシメ玉ハンコトヲ祈ル主ヨ此僕ヲ憐ミ助ケ玉ヘアーメン」という文章で終わっている。翌一八九三（明治二六）年の日誌が発見されていない今は、この文章が彼の絶筆と言えようか。すなわち死までの約三ヶ月間はまさに病気との闘いとともにおそらく精神の修養という眼目が離れなかつたのではないかと想像される。

そうした小橋の病気との闘いの日々、あるいは彼が医学の知識を背景に病気と如何につきあっているか、ということを探ることが出来る。そうした病魔との格闘の中で、小橋は博愛社の北海道移転のことも考えていた状況であった。さらに人間関係に関して触れておくと、これは博愛社の歴史にとっても重要であるが、実之助や兄弟達の動向、後に弟実之助とともに博愛社の経営に大きな貢献をし、博愛社の母として、活躍していく林歌子の事業への参加も大きな出来事であった。こうしたことが具に日誌に顕現しているといつていい。かかる事実はこの日誌「天路歷程」によって初めて明らかにできるのである。

## 二、今回の日誌の内容について

さて、今回翻刻する日誌は二月二日から五月末日までの約三ヶ月に過ぎないが、ここには上述した岡山孤児院との連携のもとで展開される

博愛社の事業や個人的には小橋の病魔と格闘する痛々しい姿を日々、詳細に窺うことができる。二、三紹介しておくことにしよう。

例えば一八九二年二月二日の日誌、すなわち冒頭には「石井兄水の熱せらるゝは下層より上層に至ると云ふ事に付き我日本国を改良するも先づ孤児より始めざる可らざる事を話さる余は其間石井兄の将来与れたる救済軍の事に付き天父に祈り熟考せり孤児救済軍を唱へて孤児の為に献身する男女の一隊を組織する事は少しも異議なし」と石井が当時、濃尾大震災において孤児済世軍を組織し、活動を展開していくことにおいて、全幅の信頼をおいて賛辞をおくり、その事業を支援していくことが記されている。農業学校を含め人物の交流等においても協力関係があつたことが窺える。

また五月一二日の日誌には「余が昨年来主に祈りて志せし処の北海道漫遊遂に主の許しを得て本日午前六時博愛社本部を出発せり小橋好一広瀬正作の両氏荷物を荷ふて見送らる途中呼吸促迫し咳嗽甚しく出で肉体にとりては聊か苦痛を感じるも靈魂に於ては喜びに充たされ希望に満たされて足も自然に進みて那波停車場に着せし時既に水守勇也君余を見送らんとて停車所に至らる暫らくして汽車発の時間をはなりて三人の兄弟に別れ汽車に乗り込みり天父は余の旅を祝福して斯く晴天を与へ給ふ萬物皆青々として天父の前に余の旅を見送るが如き感を引き起され天父の恩恵を感じると共に博愛社を思ふの念勃然として起きたり即ち博愛社一同の上に主の御恩恵の益々加はり一同の無事安全を黙禱しつ、姫路に着す」云々とあり、以前から抱懐していた北海道の件を窺うことが出来る。またここにも垣間見れるように、彼の病状については日々、日誌に綴られており、適宜その病状を読み解くことが出来る。

一方、四月十三日の日誌には「今日は善き晴天にて午前中は肉体の療養と精神の自修に費し午後は暫時書見其より運動せり夜は例の如く勧めをなせり余が天路歷程に記す可きものは（第一）自己の自修鍛錬の模様

(第二) 伝道の模様 (第三) 衛生上の模様 (第四) 農業上の模様 (第五) 孤児院の模様 (第六) 感化院の模様 (第七) 貧民夜学校の模様 (第八) 其他萬般の社会現象」とあり、この日誌に記すことの内容について触れられているのも興味深い。ここにこの日誌を認めている内容やモチーフが看取される。ともあれ冒頭からの三ヶ月を紹介した今、既述したように、以降、博愛社の歴史や小橋の個人記録、彼の交友関係、石井の岡山孤児院のこと等、多くの興味有る事実を窺うことが出来るが、六月以降の日誌については、後日の稿にまきたいと思う。

\*1 室田保夫 (関西学院大学社会学部教授)

\*2 鎌谷かおる (関西学院大学大学院社会学研究科COE・RA)

\*3 片岡優子 (関西学院大学大学院社会学研究科博士課程後期課程)

#### 〔凡例〕

- ・原則として常用漢字を用い、固有名詞・地名は原文の文字をそのまま引用した。
- ・史料上の句読点は、日記の記述をそのまま引用した。
- ・判読不能な文字は、□で示した。また、文字数が判明できない場合は「」で示した。
- ・原本中で、文字に疑問は無いが意味の通じ難いものについては(ママ)を附し、疑問の残る場合は(カ)を附して傍注した。
- ※この研究は、文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C) 課題番号 19530538 研究課題「大阪『博愛社』の総合的研究—大都市における児童保護の歴史的検証—」の成果の一部である。
- ※本稿の解説は室田、解説は室田、鎌谷、片岡がおこなった。

廿五年二月廿一日（月曜）今日八午前六時起褥七時頃喫飯午前九時より一時間安学<sup>アガク</sup>日学校を開き石井兄水の熱せらるゝは下層より上層に至ると云ふ事に付き我日本国を改良するも先づ孤児より始めざる可らざる事を話さる余は其間石井兄の将来与れたる救済軍の事に付き天父に祈り熟考せり孤児救済軍を唱へて孤児の為に献身する男女の一隊を組織する事は少しも異議なし即ち直に賛成の意を表せし其略左の如し

#### 孤児救済軍

第一 目的及び方法 本軍は天下無告無頼の孤児を救済し之を養育して天職の幸福を完ふせしむるの目的を以て外は偏二彷徨せる孤児を搜索して孤児院に入院せしめ内は院内に於て孤児と共に寢食を同ふし彼等の保護養育に従事す万事軍隊組織を以て運動するが故に団体を名けて孤児救済軍と称す

第二 軍隊費 基督信者にして一身を孤児の為に犠牲とし生涯を送らんと決心せしものに限る但六ヶ月間の試験を要す

第三 隊員の義務 万事司令官の命令に従ふ可きものとす但其義務を尽さざるものは除隊す

第四 軍隊の費用 凡て其実費を支給す但し自弁せんとするものは勝手なり

第五 軍隊の組織 左の組織よりなる而して皆軍隊の撰挙よりなる十長、五十長、百丁、千長

#### 岡山孤児院時間割

(一) 六時起床 (二) 七時朝飯 (三) 七時半集会 (四) 八時より劳作 (五) 十二時食事 (六) 一時より再び劳作 (七) 五時夕飯 (八) 六時半報告感謝 (九) 七時より九時迄夜学校 (十) 九時着床

#### 岡山孤児院事務章程

台所隊 石井しな、織本かめ せい くま、とみ、

(二) 四時起床、マツ蒲団を上げ衣服を正し顔を洗ひ髪を梳し (二) 炊事 各飯櫃に飯を盛りつけ土瓶に湯をさし食事をして各所内を掃除 (三) 次回の米を洗ひ菜を調へ (四) 再び炊事 (前の如し) (五) 三たび炊事 (六) 晩六時半感謝会に列す (七) 夜学校に出ず (八) 八時或は九時着床

#### 婦人隊劳作順序

姓名 (一) 原組 原よし、しげ、めじ、(二) 児嶋組 児嶋くら、しも (三) 鈴木組 鈴木ます、宮本よね、(四) 小野田組、(活版、理髪、農業部)

(一) 六時起床、蒲団を揚げ衣服を正し髪を梳り

(二) 台所に集り飲食及び食器を食堂に運び

(三) 大人は飯をつけ小供は之を配置し

(四) 漸次食し畢るを待ち可成急速に食器を片付けて食堂を掃除し

再び台所に運び之を洗拭し

(五) 右終はりて各々室に帰り室内をフキ掃除し蒲団をほし

(六) 掃除畢りて一同裁縫室に集り十一時まで仕事

(七) 十一時より再び食事を助く (前の如し)

(八) 一時より再び仕事

(九) 四時より夕食を助く (前の如し)

(十) 六時半晩の感謝会に列し

(十一) 七時帰室、各所持小供の寝所を備ゆ

(十二) 九時着床、明治廿五年二月十七日 岡山孤児院

午後は山本唯三郎氏大阪より来社せらる石井兄諸共に北海道移住の事に就き談議せり一定年間順備<sup>アツク</sup>して主の許しを玉ふ時に北海道へ同志の士と共に移りカナンを切開くは尤も希望の至りに耐へず夜は廿三名の孤児岡山孤児院へ帰るにつき送別演談会を開き各己が感ずる所を述べたり

廿二日(月曜日) 早朝より起きて廿三名孤児及び高橋竹千代君小橋良之助君共に岡山に行けり午前中及午后課業休みにして室内を掃除し事務を整頓し生徒の組を別ちたり夜は談話会を開き大に益を得し又米國ペンシルウアニア州の発見者創業者たるウキリアムペン氏坐上の鍼を読み大に感ぜし

廿三日(火曜日) 午前六時起床一時後其より聖書講義と農業談をなせり喫飯八時より一時間教授其より実業を始む十二時喫飯午后二時より家政掛の教授を始む村尾よし姉要用ありて来談せらる夜は集りを開き暫時勉学十一時褥に就く、

廿四日(水曜日) 午前五時半起床今日は少しく後れし午前は生徒に教授をなし又家政の手伝ひをなせり午后は生徒に教授をなし又家政の手伝ひをなせり夜は家政の事務と生徒の監督をなせり十一時褥に就く、

廿五日(木曜日) 午前五時起床朝の集りに於て勧めをなし又家政の手伝ひをなせり又午前は生徒に教授をなし又家政の手伝ひをなし午后は生徒に教授をなし又家政の手伝ひをなし夜は万事を熟考したり今日宮崎の牧龍太兄より書簡を差越さる貳銭切手三十枚寄附せらるは氏は創業以来今日に至るまで不相変補助せらる事は実に感謝の至りに耐へず

廿六日(金曜日) 午前五時半起床朝の集りをなし喫飯今日は少しく精神的涵養に従事したり又米國史を読み終はり大に感ずる所ありし米國の今日ある所以は偶然にあらず我儕鑑みざる可らず生徒の課業は皆休みし今日晩方に小橋良之助氏岡山より帰り感話をされたり今夜博愛社普通学校の独立を主に祈りし今ハ実に恵みの時救ひの日なり又用ゆべきものは忍耐なり尔来三ヶ年の星霜を経て同志の輩と共に北海道に移住し新天地を開拓する事は余の切に望む所なり願はくは主よ是の切なる祈りを聴き玉へアーメン

廿七日(土曜日) 今日朝より晩に至るまで朝の集午前教授午后の教授庖厨等をなせし今日は肉体を十分に強壯にすべきは事業をなすに尤も必要なる事なり故に明日より肉体の練達と精神の修養を主に祈りて十分に勉めざる可らず

廿八日(日曜日) 午前の日曜学校に於て聖書を誦じ米國の發達の模様を話せし其より午後へかけて書簡を認め又精神の修養と肉体の練達を得る法を考へたり精神潔白博愛至誠肉体強壯活澆以て実業を熱心に働き余力を以て國の為働く人は余の理想する新日本の農夫なり是の農夫を養成する事は余の尤も希望して止なざる所なり今日は女学生なる雑誌の中実行と無言と云ふ説を読み大に感ぜし又主の言の外凡ての言に心をとむる勿れと云ふ決心を与へられたり

廿九日(月曜日) 今日より精神の修養と肉体の撰養の為に休暇を与へらる小橋実之助氏余に代はりて朝五時より晩の九時迄或は生徒を教授し或は生徒と共に働きてペスタロツヂ氏の跡をふみて働かる又小橋正二君は庖厨掛を担当せらる之に由て大に整頓せり今日は実に神の恵みを感じり

三月一日(火曜日) 今日朝より晩に至るまで静かに休みし今日は咯痰は少しく減せしもの、如し運動は大に怠りし

二日(水曜日) 今日朝より晩に至るまで静かに休みし今日は咯痰咳嗽甚しかりし

三日(木曜日) 今日朝断食して腹を干し其より庭前に出で身体を運動し午后も夜も絶へず之を試みしに咳嗽咯痰頓に減じ気分快なりし

四日(金曜日) 今日午前は製本をなせし午後は農科大学生徒美術人八木和一郎氏来訪され農業上の談話をなし大に利益を得たり(一) 肥料の事(二) 媒助法のこと(三) 気筒法の事(四) 豆類の事(五) 麦苗壓助法二付き午后は小崎弘道氏富田元資氏より大垣伝道出張の依頼状来れり是れ主の命なれば従はんと決心せしも夜に至りて生徒の

March 2008

中に口論暴行起り大に心を痛めたり若し十日間も不在なれば又乱る、や必せり行かんか止まらんか久しく決する能はざりしも遂に断然意を決して止まる事に定めたり是れ主の聖旨に協ふ事なりと信ず

五日（土曜）今日は昨晚大声を発せし為咯痰咳嗽大に増加せし又音声全く噎したり終日病床に臥せり今日午后山本唯三郎君帰坂の途に就かる今日小崎弘道富田元資両氏へ断りの書翰を出せり夜は早くより就褥

六日（日曜）今日は終日咯痰咳嗽甚しくして病床に臥せり一般生徒の言行日に月に悪に赴く様子を見て慨嘆せり唯主の御恩恵の降るを祈りし又小橋礼太郎氏も大に悟る所あられて益々医学に勉強せらる、決心を起されたり又西尾雅胤君も全く献身して北海移住に賛同し益々労働を主にして勉むる事に決心せらる小橋良之助氏は未だ何れとも決せられず願くは彼を導きて決心する所あらしめ玉へ

七日（月曜）今日は朝より病床に臥してありしに村尾うめ姉孤女竹内りようを連れて来らる之を救ひ取りて衣服掛となせり彼れは年齢十二歳なれども男子に優る事実に大なり夜は生徒一同に噎したる声を以て（小橋実之助通弁せらる）大に言行を改良すべき事を話せり殊に井口英五郎氏村瀬兵太郎氏を久しく自室に留め置き説諭せり今夜は実に生徒の精神を奮起せしむる折を与へられたり

八日（火曜）今日は咯痰咳嗽大に減ぜし今日昼食を減じて胃を空ならしめしに大に気分宜しかりし夜は感じを話せり

九日（水曜）今日は身体の病気を十分に療養すべしとの善き思想引起されたり然れども咯痰咳嗽甚しくして呼吸短促し終日病床に安臥せり十日（木曜）今日は昨日と異なるなく終日病床にありて病気を養ひたり然れども家内の監督書翰上の交際事務は矢張取扱ひたり

十一日（金曜）今日は朝より病床にありしに午后に至り姫路教会の露無文治氏井上恒次郎氏来社せらる夜は祈祷会に於て両君の勧め及び各

自小橋勝之助氏病氣全快の為日要の糧の為祈祷せり夜は十二時頃迄凡ての事を談話せり

十二日（土曜）今日は小橋実之助氏岡山に行かる何事も全く主にありて事を処置すべき由を申聞けり又露無文治氏井上恒次氏と暫らく談話し両君は龍野に向つて出発せらる今日午后よりテレビン油の吸入を始じむ昨夜よりの長談話の為め咳嗽咯痰一層甚しくなりし

十三日（日曜）今日は朝室を転じたり安息日学校は小橋礼太郎君之を教へらる午后より夜へかけて静かに休眠せし

十四日（月曜）今日は朝より晩に至るまで静かに病気を養ひし然れども小橋実之助不在なるが故に時々家政及実業上に干渉せし午后五時過ぎ小橋実之助氏岡山より帰らる種々模様を承はる殊に余の病氣の為凡ての人祈らると聞き大に喜べり又小橋良之助氏も遂に岡山孤児院活版部に使はる、事になれり大に主に感謝せり

十五日（火曜）今日は朝より晩に至るまで静かに病気を療養せり咳嗽咯痰大に減じたりテレビン油の吸入大に功を奏せり又今日より毎朝夕の洗拭法を行ふ大に善し

(一) 食事三度、米粥、豆腐、油揚、菜類、豆類、肉類（時々少量）  
鶏卵（大略一日三個）牛酪（一週間一罐鶏卵二代用）小麦粉、漬物、

(二) テレビン油吸入、塩刺含漱薬、健胃剤（塩酸、苦味丁幾）砒結丸、

(三) 毎朝夕胸部腹部手腕部洗拭、新鮮ノ空気呼吸、輕易の運動、安眠、入浴

(四) 午前二時間午後二時間ノ外決して書見すべからず、又長き間の談話を避くべし一人の人に二十分より以上の談話すべからず、又可相成家事の干渉を避くべし

十六日（水曜）今日は朝より昼に至るまで或は書翰を認め又聖書を読め

り又野外の運動せり午后に至り前川清治氏の母来訪され村尾得之氏の事につき談話せらる夜は静かに精神を養ひたり今日は咳嗽咯痰大に減じ身体の力も大に恢復せり主の大なる御恵み感謝するの外なし今日岡山孤児院石井十次氏小野田鉄弥氏高橋竹千代氏前田英哲氏に書き送りし病床にありての感じ次の如し

(一) 妻もなく子もなく財も智恵もなし此世を去るの何の苦もなし  
(二) キリストは愛の手ひろげまち給ふ死するは我の益とこそ知る  
(三) キリストのみわざのゑきとなるならばやぶれうつしもしばしたもたん

十七日(木曜) 今日朝より胃を損じ大に気分悪し、咯痰咳嗽少しく甚しくなりし又或は書見をなし或は運動をなし或は休眠をなし随意に一日を送れり

十八日(金曜) 今日朝より気分悪しく正午迄病床に臥せし午后は村尾きぬ愛姉が来社せられて種々一家の方針村尾よし姉の事につき談話せり或は書見し或は運動し夜は早くより就眠

十九日(土曜) 今日午前書見をなし或は運動をなし午后は暫時休眠其より晩に至るまで或は入浴或は書見をなし或は運動をなしたり今日に至りては咯痰咳嗽呼吸短促等大に減ぜし

二十日(日曜) 今日余程気分良く咯痰咳嗽も大に減じたり午前安息日学校に於て品行に付き勧めをなせり午后は休眠夜も早くより就寝

二十一日(月曜) 今日午前は専ら書見をなし午后も亦然り恒に一室にありて運動をせざるにより身体大に衰弱したり咯痰咳嗽大に減ぜしにより是れより専ら運動を務め以て身体の健康を恢復せざる可らず「キリストは是故に我爾曹に告げん凡そ祈禱の時その求る所のものは必ず得べしと信ぜば必ず得べし」と又曰く爾曹もし茶種一粒ほどの信あらば此桑樹に抜て海に植れと曰ふとも爾曹に従ふ可し(路十 七ノ六) 又曰く爾の僕の如く爾に成るべしと然らば今より身体の運

動練達も勉強せば必ず活潑に主の御用を務むるに至らしめ玉ふ事疑ひなし

二十二日(火曜日) 今日身体の外運動を試みるとせしも積日の習慣の為に妨害せられ遂に其目的を成就し能はざりし肉体は実に弱いも哉夜は馬の癖の話をなして生徒に勧めをなせり

二十三日(水曜日) 今日朝より龍野行をなさんとせしも遂に正午迄発する能はざりし午后発足して龍野に出懸けたり或は咳嗽をなし或は呼吸短促し実に苦しかりし必死を尽して歩行し晩景に龍野に着し平松に投宿晩食後直に就寝大に疲労せり今日東京巖本善治氏関西漫遊せられ博愛社へ立寄らる、報知を得て大に喜べり

二十四日(木曜日) 今日龍野に於て買物をなし岡本良知君を訪ねて談話せり岡本良知君今治に帰り岡本千代愛姉は大坂松島幼稚園に行かると、よし午後小犬丸村石田治左工門氏の宅を訪ね茲に一泊せり今日も大に疲労せり

二十五日(金曜日) 朝より午後四時頃休息し又必要の談話をなし其より若狭野村大崎良平氏に荷物を助けられ大急ぎにて帰れり今日は身体に大に力つきし事を感じ感謝の至りに耐へざりし夜は生徒に感話をなせし

二十六日(土曜日) 今日朝より昼に至るまで事務を取り間際には運動せし又午后は書見をなし又事務をとりし夜は生徒の土曜会議を開きし前原定一気候豪情に陥りし故主の御許しを蒙りて彼れに愛の鞭を加へし前原定一は全く前非を悔ひ改めたり

二十七日(日曜日) 今日安息日学校に於て正直、勤勉、親切、の三個條二付勧めをなせり午前又西尾雅胤氏と将来の事に付談話せり又水守勇也氏の件に付き水守達也氏来談せらる夜は生徒の演説会を開けり

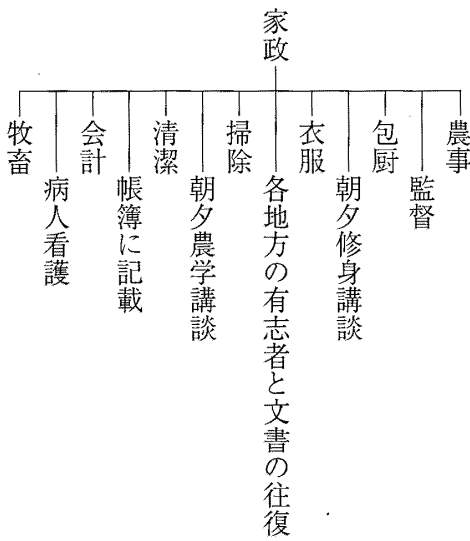
二十八日(月曜日) 昨日来少しく胃加答兒を起し少しく朝寝をなせり午

前中は書見をなし精神を錬磨せり午后に至るも身体違和を覚へ一室に閉居せり今日肺水胞音を聞きしに右肺にも之を聞くに至れり余の生命も二三年に迫れり豈に奮発せざる可けん哉夜は人は貴賤の別なく言行の正しきによりて人の仏範となりて社会に大なる益を及ぼす事を話して勧めをなせり

二十九日(火曜日)今日は朝より事務を執れり午前に医師上月謙益氏来訪せらる種々談話せり午后は又事務を執れり夜は品行は努力なりとの題にて勧めをなせり今日は尚一層身体に快気を感じせり今日午后よりケレヲソートの吸収を始めたり今日より朝夕の集りに出席するに至れり

三十日(水曜日)今日は朝より晩に至るまで事務をとり書翰を認め又書見し又胃弱を感じ大に運動を怠りし又今日は藤井米八郎氏より親切なる書翰来れり

三十一日(木曜日)今日は朝の集りより夜の集りまで或は事務をとり或は身体に療養を加へ或田畑を巡回し或は会計を調べ寸暇なかりし大に疲労せり朝の集りにては箴言廿五章ノ十八、十九の二節につき勧めをなせり夜の集りにては習慣の事に付き話せり



四月一日金曜 今日朝より昼に至るまで先月中の会計をなせし今日は胃に食物滞留し大に気分悪し、午后は暫時休眠せし夜は祈祷会を開き日用の糧の与へらる、為又三宅三太郎氏の為各自の罪の赦さる、為に祈れり又三宅三太郎氏に愛の鞭を加へし是迄の罪を悔改めんと誓へり

二日(土曜)今日は朝より晩に至るまで家の内の大掃除をなせし又高橋君長谷川昇次郎来訪せられ種々談話せり又生徒の衣服の調べをなし虱の掃除をなせり夜は集りをなし主の御恵みを感じし各自の感じを述べ大に益を得たり又生徒会議を開けり今日は主の大なる恵みを感じ実に満足なりし

三日(日曜)今日は午前安息日学校に於て馬太伝四ノ一―十一迄につき悪魔の誘惑殊に人ハパンのみにて生きるものにあらざる真理を話せり今日は大に胃を損じ午后は就眠せり夜も亦早くより就眠

四日(月曜)今日は午前少しく事務を取り其より野外の運動をなせり天気晴朗にして大に愉快を感じせし午后は久しく講義の準備をなせり晩景に於て又野外に運動せり夜は謙遜と云ふ題にて話しをなせり一昨日来胃を損じ喉頭加答児を発し咳嗽咯痰甚しくありしに今日に至り略ぼ滴散せり

五日(火曜)今日は午前静かに書見をなし又午后は休眠をなせり今日は咳嗽咯痰甚しく又胃部不快にてありし夜はヨセフの伝を話せし又今日夜間遺尿症に付き調べたり

六日(水曜)今日は午前野外に出て、たんぼ□を取れり十一時頃巖本善治兄富井定助氏本社に來る巖本兄と服藏なく談じ合へり夜は集りをなしヨセフの伝を話せり余は今日巖本兄と共に談じ真に喜びに充ちたり又同氏と共に運動せしにより大に疲労せり但し身体の為には宜しかり

七日(木曜)今日は午前中は書見をなし又散歩し本務を取りて暮らせり



午後は書翰を読み又小橋礼太郎氏より姫路教会春季部会の模様を委細聞きたり夜は渡辺瑾哉氏の履歴を話し生徒等に勧めをなせり

八日(金曜)今日は午前中は書翰を認め事務をとり又身体の撰養をなし午後は山林火災の為に生徒一同を消火の為遺せし自分も運動勞集り大に疲労せり夜は祈禱会を開けり

九日(土曜)今日は午前は事務を取り午後は休眠せし夜は謙遜の引例につき話せり

十日(日曜)今日は午前は安息日学校に於てエステル書を話せし又聖書を読み自修す午後は水守立節氏来訪せられ水守勇也君の将来二付談話せり遂に預かる事に決しられたり夜は演説会に於て上帝福善禍淫と云ふ題にて述べたり

十一日(月曜)今日は午前は身体の撰生二付き学びたり午後は大に疲労せり因て休眠す夜は誠実二付勧めをなせり

十二日(火曜)今日は雨天にて終日家居して精神を修養し肉体を療養し傍ら事務を執り勉学をなせり夜は勧めの談話をなせり

十三日(水曜)今日は善き晴天にて午前中は肉体の療養と精神の自修に費し午後は暫時書見其より運動せり夜は例の如く勧めをなせり余が天路歷程に記す可きものは(第一)自己の自修鍛錬の模様(第二)伝道の模様(第三)衛生上の模様(第四)農業上の模様(第五)孤児院の模様(第六)感化院の模様(第七)貧民夜学校の模様(第八)其他萬般の社会現象

十四日(木曜)今日は岡山孤児院に行く為に出発し午前九時半発の汽車にて正午十二時岡山に着す天気晴朗実気分宜しかりし孤児院に至る途中浅沼氏の理髪店に立寄り髪を剪り種々談話を聞けり其より孤児院に着したりしも石井兄は高橋兄と共に神戸に行かれ其より名古屋に赴かれるよし遂に面会せざりしは残念なりし其より前田兄の許にて暫時談話し入浴して守田幸吉郎を訪ねて談話し晚餐の饗

応に遇ひ其より晩の集りに列し戸川館に一宿す

十五日(金曜)朝起きて前田兄の許に於て食物を喫し其より炭谷姉ベテール氏を訪ねて談話し又一同に別を告げ帰路に就く ○岡山孤児院現在員百八十人内男百二十六人女五十四人 又就眠者二十五人退院者二十一 人脱院者九名 ○帰途若狭野村に立寄浅野長三郎氏の宅にて或る広告を見しに京都市烏丸通下長者町上ル平瀬種禽園に於ては種卵銀色ハンバーク二十銭金色ポールランド十銭レットカップ十銭暗色ブラマ十銭淡色ブラマ十銭バフコーチン十銭パートリッチコーチン七銭銀色ワイアンドット七銭白色ワイアンドット七銭薔薇冠レグホーン五銭単冠レグホーン四銭プリマスロツク七銭 ○去る十日より十二日迄東京大火あり全焼四千五百四十六戸半焼百一十戸物置四十棟土蔵五棟の由実天の降し玉ふ大なる警誠なり我國の前途実に危急に迫れり我伝豈に奮励せずして可ならん哉 ○大坂北野村小松原に小林授産場あり其主人は小林佐兵衛と云ふ人にして貧民の子女及び孤児を憐れみ之を救済する為に設けられし由実に篤志の人と謂ふ可し明治十八年頃より今日に至る迄余程多くの貧児孤児を救済せし由斯る事業の我國の各所に起らん事を祈る ○夜は祈禱会にて各自勉強力を与へらるゝ為に祈れり余は一行中の所感を述べたり

十六日(土曜)今日一昨日来の疲労にて午前十時頃迄褥にありし其より小橋礼太郎君に所感を話したり午後は少しく事務を執り夜は村尾ウメ姉来談せらる村尾得之氏己れの罪を改悔し天の父を呼ぶるゝよし実に感謝の至りに堪へず夜は東京大火に付きての警戒村尾氏悔改の事に付き感じを述べたり十四日の日には社員沢田兄来社せら余の病氣を見舞はれたり寺田延太郎兄よりも愛の贈り物ありし夜は遅く迫明日安息日学校の準備をなせり

十七日(日曜)今日午前九時ヨリノ安息日学校二於て談話し其より書翰を認め午後は女学雑誌及び渡辺瑾哉氏よりの書翰を読み又書見をな

し自修鍛錬せし夜は感話会を開きたり今日運動を怠りし  
 十八日(月曜)今日は午前は書翰を認め午後は生徒の品行を質せし夜は  
 集りに於て勧めをなせし

十九日(火曜)今日は午前生徒に普通学を教授し身体の療養をなし又村  
 尾ウメ姉と談話し又勉学し又午后は身体の運動及び勉学に力を用ひ  
 夜は勧めをなせり

二十日(水曜)午前は授業し又事務を取り午後は農学を研究し又身体  
 の運動を務め療養せし夜は勧めをなし又兎の詞養を話せし又東海道を  
 経て東京に行き東山道を経て北海道に至る許しを受くる事を祈れり  
 又其旅費を与へられん事を祈れり

二十一日(木曜)今日は午前には教授又は榊原栄を誹責す午後は農業雑誌  
 を研究せし夜は衛生上の勧めをなせし

二十二日(金曜)今日は午前には教授又は書見し午後は山林を見聞の為に  
 鍛冶屋谷に行けり大に疲労したれども身体の為には宜しかりし夜は  
 勧めをなせり

(二十三)日(土曜)今日は午前には教授又書見をなし又書翰を認め午後は  
 一人の生徒訓誡の為費せり夜も亦然り余の身体一面に疲弊を患ひ大  
 に苦を感じず

(二十四)日(日曜)今日は終日自修鍛錬と身体の損生に費せり安息日学  
 校に於ては放蕩息子の話しをなし夜は生徒等の益誠実になる様に祈  
 れり又沢田兄来られ種々談話せり

(二十五)日(月曜)今日は午前には教授と事務をとり又沢田兄と博愛社将  
 来の事につき談話せり午後は沢田兄と談話し且つ休眠せり又今日は  
 何となく自己の不徳を感じ夜は真正の勇氣に付き勧めをなせり

二十六日(火曜)今日は午前には教授をなし又事務取れり午後は身体不和  
 を感じ休眠せり是数日来食物其口を得ざるの結果なり夜は早くより  
 休眠今日も亦大に自己の不徳を感じり

二十七日(水曜)今日は午前には教授をなし又事務を執れり午後は書見及  
 教授をなし夜は交際二付ての勧めをなせり今日身体快復せり又節食  
 に付祈れり

二十八日(木曜)今日は午前より午后に至るまで生徒の試験に従事せし  
 夜は村尾うめ姉と談話せり又村尾よし子信仰に進まる、事の音信を  
 聞き大に喜び主に感謝せり夜は生徒に信仰上の談話をなせり

二十九日(金曜)今日は午前に至るまで生徒試験の成績調べをなし夜は  
 愛国と云ふ題にて勧めをなせし今日は節食の気分爽快なる事を感じ  
 り願くは主よ余に力を与へ給ふて必要の外何をも言はず三度の食事  
 に外何をも喰はざらしめ給はん事をアーメン又来月中旬より東海道  
 を経て東京に行き其より北海道に漫遊なさしめ給へ又なくてはならぬ  
 旅費を到る処に於て与へ給へアーメン

三十日(土曜)今日午前は生徒教授及肉体の損生をなし又書見をなせし  
 午後は別課生の教授及び書見をなし夜は勧めをなし又会議をなし又  
 親睦会をなせし

三十一日(日曜)今日は安息日学校に於て悔改に付き話せり又生徒に感  
 話の準備をなさしめ午後は休眠して精神を休めり夜は感話会を司会  
 せり

#### 五月

一日(日曜日)今日ハ安息日学校にて悔改に付き話せり又生徒に感話の  
 準備をなさしめ午後は休眠して精神を休めり夜は感話会を司会せり  
 二日(月曜日)今日は午前には授業又書見午後は一室の掃除及前月中の計  
 算をなし夜は眼科書を調べたり

三日(火曜日)午前五時半起褥其の朝の聖書講義と農談とをなせし九時  
 より出発して岡山に行かんとせし然れども過る十日間の精神過度の  
 使用の為に胃を大に損じ道を歩行するに呼吸大に促迫して困難なり  
 し殆んど汽車に乗り後れしに幸ひに乗る事を得たり(是に於て大に

- 感ずる事あり) 乗車中凡二時間余半ば睡眠せし岡山に着し浅沼理髮店を訪ね其より孤児院に行き高橋君に面会し麦稻製造所マツチ製造所活版所を見其より前田兄の許に行き談話し又小野田兄より金40を受取りたり又此度漫遊の目的を談話し喫飯し其より礼拝堂に行き勧めをなし七時より相愛夜学校に行き其有様を觀大に喜べり九時帰院高橋君矢野君、原君に談話し又松田順平氏の病を戸川館を訪ねたり前田兄の許に宿り午前二時頃追信仰上の談話をなし眠に就く
- 四日(水曜日) 午前五時起床其より別を別けてステーションに行き六時十八分の汽車に乗り帰路に就く十二時卅分帰社す其より別課生の教授をなし夜は一行中の感話をなせり岡山相愛夜学校は岡山婦人矯風会員の受持なり貧民の子女三十人を入学せしめて読書算術習字を教授す教授の人ハ女学生原たか中堀とく加藤つね西山しげるの四人なりし女伝道師辻ひさ子姉は万事を周旋せらる安息日学校は平均四十人内小児二十人程集るよし
- 五日(木曜日) 今日終日近日来の疲労にて病床にありし実に胃病の療法には困り入る主よ願わくは胃病を癒やす最良の法方<sup>マヤ</sup>を与へ給へアーメン
- 六日(金曜日) 今月八午前は暫らく臥床し又事務をとり午後は教授をなし又事務をとり夜は交際上朋友相愛すべしとの勧めをなせし
- 七日(土曜日) 今日午前は静かに精神を養ひ又帰社されたる小橋礼太郎君と談話せり鞍居村は戸数六百個程あるよし其内二百戸は商法をなし居るよし又数日來の降雨の為に貧民粥を啜り居るよし又通常の農家も次第に喰ひ込み益々困難に赴く有様なるよし又氣候不順の為病人多くあるよし午后は早くより一同に休暇を与へ夜漫遊発途の送別会を開けり岡山孤児院より小野田鉄弥氏來社せらる実<sup>ニ</sup>に好都合なりし数名の人各々感話をなして忠告せらる又小野田鉄弥氏は或る小冊子に就き祈禱の事に付き話さる大に益を得たり
- 八日(日曜日) 今日午前は安息日学校に於て小野田鉄弥氏祈禱につき談話せらる又信仰上に就き小野田鉄弥氏と談話せらる午后は孤児院將來につき実業的教育の事に付き談話せり夜は漫遊の目的につき話せり
- 九日(月曜日) 今日午前八時頃より龍野に行き物品購求の為奔走したり帰途前田薫氏を訪ね孤児院の事殖民上の事につき談話せり夜は石田治左エ門氏の宅に宿り種々悪事を働く人々の話しを聞けり
- 十日(火曜日) 午前九時頃追疲勞して眠り其より起床喫飯暫らく談話し將來を誠め置き十一時に発足して帰途に就く今日は降雨甚しくして大に衣服を濡らしたり本年は実に雨多し此の如くにして止まざれば農民の困難實に一方ならざるべし本年は如何なる凶年ぞや我國の將來を思へば實に嘆息の涙に咽ぶの外なし午後一時帰社其より女学雜誌を讀みて九州地方の現況を知り又東京暁星園主本郷定次郎氏自己の財産を主に獻ぐるの運びに至りし喜の音を得大に喜べり夜は舍弟小橋良之助酒に酔ひ來り庭前に嘔吐を發し地上に横臥し昏睡す其状實に醜態極まれり嗚呼日本國中の同胞の中に斯る醜態を顯はし酒の為に身心を破るもの勝て数ふ可らず殊に有望青年の斯る有様に沈溺するもの亦多かるべし禁酒の説は十分に唱へざる可らず放蕩無頼の青年を救ひ出す策を講ぜざる可らず天の父よ余の汚れたる又乱れたる口を清め給へ主キリストよ余を護りて誤りに陥らしめ給ふ勿れアーメン
- 十一日(水曜日) 午前七時頃起床其より精神の準備をなし又水守立節氏來社せられ種々談話せり其より事務を取り晩に至る夜は不在中の注意を陳述せり又役員会を開き種々談話し不在中の事を托せり願くは主よ余の不在中彼等を守り給へアーメン
- 五月十二日(木曜日) 余が昨年来主に祈りて志せし処の北海道漫遊遂に主の許しを得て本日午前六時博愛社本部を出發せり小橋好一広瀬正作

の両氏荷物を荷ふて見送らる途中呼吸促迫し咳嗽甚しく出で肉体にとりては聊か苦痛を感じずるも靈魂に於ては喜びに充たされ希望に満たされて足も自然に進みて那波停車場に着せし時既に水守勇也君余を見送らんとて停車場に至らる暫らくして汽車発の時間をはなりて三人の兄弟に別れ汽車に乗り込みり天父は余の旅行を祝福して斯く晴天を与へ給ふ萬物皆青々として天父の前に余の旅行を見送るが如き感を引きされ天父の恩恵を感じると共に博愛社を思ふの念勃然として起きたり即ち博愛社一同の上に主の御恩恵の益々加はり一同の無事安全を黙禱しつゝ、姫路に着す先づ第一に田中三郎兄の宅を訪ねしも出勤中にて不在なりし妻君と暫らく談話し其より桑野弦蔵兄を訪ねしも不在なりし老母と談話の際エイ愛姉の永眠に就かれし模様を聞き大に靈魂上に益を得たり其より昼飯を喫し午后一時頃露無文次兄を訪ねて種々の談話をなり其の談話の中にも一人の寡婦其名を鈴木ヤスと云ふ姫路教会員なり五人の子供あり四人は他家に養はれ六才の小児一人連れて生計を営まんとせしも実に困難なり近頃神の力に依頼し自己の身心を使用し独立の生計を営まんと決心し遂にフトシタ事より按摩を始め一円五厘の賃を以て始めしに此頃は実に忙がはしくして多くの頼み手あり其れ故に生計も容易くなれりてぞ話されたり神の手に依頼して自己の身心を勞するものは実に福ひなり其他教会員のうちにて誠実一辺にて商法をなすものもあり其結果甚だよろしきよし又露無兄は近江商人と云ふ書物を持ちて居られし近江国の人は実に商法に熱心なるよし而して豪商になりしものは徳義を守り節約勤勉せしものに限るよし商法に志しあるもの実に鑑みざる可らず其他信仰上の談話をなして其実を話せり其他今日姫路幼稚園保育園に行き縦覧せり稍整頓して見る可きものあり又幼稚保育につき熱心に尽力せらるゝ野尻直君と孤兒院の事業に付き教育上につき談話せり神は余を姫路に一泊する事を許し給はざりし其れ故に桑野

弦蔵君田中三郎君井上恒次君其他及び其他の兄弟に面会せず三時頃姫路停車場に至る暫らくして田中三郎君面会せんとて停車場に来る暫時談話し四時十七分汽車に乗りて明石に至る明石細工町湊講一愛兄の宅に宿る夜は種々衛生上の談話を聞き大に益を得たり殊に湊君は此頃肺病に奇効ある薬品を發見せらる今日迄の経験によれば甚だ奇効を奏するよし余も今夜肩胛部に注射して貰ひたり同君余の肺部を診断して曰く両肺全部にラッセルあり此假にて北海道へ行くは甚だ危険なりと先づ四五日逗留して薬剤の効否を験す可しと余も明日篤に祈り主の答を得て主の聖旨に協はし四五日は滞在して薬剤の注射を試みると欲す今肺の浸出物吸収したら実に幸甚の至りなり又今夜は浦木弘君井上敬一君も湊君の宅に来られ殖産上に付き殖民上に付き国会議事に付き種々談話せらる本年の国会も無事に済まざる有様なり本年は実に我國の困難次第に高まる可し豈に警戒せざる可けんや祈禱をなして褥につきし時は十二時なりし

十三日（金曜）今日午前七時起褥其より聖書祈禱喫飯湊君庭前の蘭及びヲモトの事に付き大に感じを引起せり又吉野某氏にマッチ製造所の模様を聞き其より蘆田君を訪ね肺結核につき談話せり其より喫飯午後中山直哉氏の宅を訪ね妻君と談話し其より鈴木武君を訪ね牧畜上の談話を聞き大に益を得たり夜は明石教会堂に行き祈禱会に列せり其より帰宿博愛社への書翰を認めて十二時就褥

十四日（土曜）今日午前七時起褥盤嗽を終へ聖書祈禱喫飯九時頃より牧師川本政之助氏を訪ね孤兒院の救済放蕩生の感化の必要教会振興の策牧師伝道師自給伝道の必要キリストを全く受容れ高尚なる品格を涵養する事を談話し昼飯の饗応に預り午後一時石田庄三郎氏を訪ね養蚕所養鶏所を縦覧し之れが飼養の説を聞き又浦木弘兄を訪ねて水産上の談話を承はり其より山岡光太郎兄を訪ね教育上処世上慈善事業上に付き談話し夜は久し振りにて中澤益江姉と種々談話し博愛

社への第三報の書翰を認め終はり十一時褥に就く

十五日(日曜)今日は午前七時起褥盥嗽を終へ聖書喫飯八時半過より会堂に行き聖書につきて学び又兄弟の勧めをき、午后は或る兄弟の宅に開かる、集りに会し自らも感話を話し又兄弟の感話を聞き帰途中山氏の宅に立寄り妻君に道を談じ夜は会堂に行き川本氏の説教を聞き大に益を得たり十一時褥に就く

十六日(月曜)午前七時起褥盥嗽を終へ聖書祈祷午前中は或は書翰を認め或は新聞を読み信仰上の自修鍛錬をなせり午后も亦信仰上の自修鍛錬をなせり又入浴をなし海岸に運動をなし夜は談話をなし十一時褥に就く(第五報)

十七日(火曜)今日午后六時に身体の重量を秤りしに十二貫に百八十匁不足即ち十一貫八百二十匁なり其時身体に附属せしものは天竺木綿シャツ一枚単物二枚足袋一足なり○又今日毎朝毎晩牛乳一合を取る事に定めたり今日午后二時過ぎ上の丸鈴木武氏の牧場に行き牛合ゴウ一合を飲用し其より二時間程休眠せり気分身体の模様大によろし精神過労は大に害ある事を悟れり○明石公園地内を散歩し大に愉快を感じり(第六報端書)

十八日(水曜)今日は午前七時過ぎ祈祷博愛社より一通の端書を得たり一同無事及び小橋実之助氏の病氣も次第に全快のよし盥嗽、身体洗拭、聖書祈祷、喫飯其より上の丸鈴木氏に至り牛乳一合を飲み又牛及牛質の有様を觀大に愛らしく感ぜり其より伝道師松村竹夫君の宅を訪ね事業上の談話及び信仰上の談話及び同氏の経験等を談話せり昼飯の饗心に預り午后も亦同氏の談話を聴きて楽しみ又浦木弘兄も来られ共に談話せり午后三時頃牛乳一合を飲用せり五時過帰宿其より銭湯に入浴其より喫飯又博愛社及石井兄への二通の端書を認めたり○理想的伝道師の備ふべき智識―神に就て: 聖書―人に就て: 歴史―万有に就き: 科学

十九日(木曜)午前七時起褥盥嗽、洗拭、聖書、祈祷、喫飯、新聞閲読

其より上の丸鈴木武氏の牧牛場に至り牛乳を飲み其より午后一時頃迄休眠す二時に牛乳を飲み又葛湯ト鶏卵の食事を与へられ之を食し其より公園内を散歩し川本牧師を訪ね衛生上の事を談話し山岡光太郎兄も来られ共に肺病胃病に付き談話せり其より帰宅岡山孤児院及東京藤井米八郎氏とへの端書二通を認め其より入浴をなし夜は早くより就眠

二十日(金曜)午前六時起褥(□通)盥嗽、洗拭、聖書、祈祷、喫飯、肺部診察右肺ハ通常呼吸にてプツ／＼ト云ふ水泡音を聞く咳嗽のときにプツ／＼／＼ト云ふ音を聞く左肺は通常呼吸にては少し大なるプツ／＼ト云ふ水泡音を聞く咳嗽時にはプツ／＼／＼／＼／＼と云ふ音を聞く今朝は咳嗽少しく出で咯痰ありし其後鈴木氏牧牛場へ行き牛乳を飲み午后も又然り午后一時五十六分発の汽車にて舞子に行き安岡氏の別荘を縦覽し天然の絶景を見大に天父の造化の妙を感じし夜は祈祷会に臨みて靈肉の健全を祈れり

二十一日(土曜)病氣の容体は前回の如し今日は鈴木氏宅へ行き牛乳を飲み休眠をなせし又昼は断食せし大に胃の掃除をなせり夜は身体の重量を秤りしに十一貫八百二十匁なり即ち前と同じ本日博愛社へ第七報の書翰を差出せり

二十二日(日曜)午前七時起褥盥嗽、聖書、祈祷、肉体療養八時半より会堂に集まり聖書を研究し十時頃より上の丸に行き牛乳を飲み帰途浦木弘君と談話し喫飯後上の丸西岡氏の宅に集りキリストアンのものは社会的生計を全ふして神の栄光を顯はさざる可らずと勧めたり夜は川本牧師の説教を聞きし同氏は熱心に己を棄て、キリストに依り頼む信仰の秘訣を述べらる大に益を得たり

二十三日(月曜)午前七時起褥盥嗽聖書、祈祷、肉体療養九時頃より上の丸に行き牛乳を飲み其より午后一時過ぎ迄休眠す牛乳を飲み其よ

り松村如□君を訪ねて信仰上社会上の談話をなせり夜は談話をなせり

二十四日(火曜) 午前七時起床、聖書、祈祷、肉体療養九時頃より上の丸牛乳飲みに行きし其より散歩して人丸廟社に行き其より海岸を散歩し十二時帰宅せり午後は雨天にて家居し読書せり夜は談話をなせり

二十五日(水曜) 午前七時起床、聖書、祈祷、肉体療養今日ハ雨天なりし故に終日家居せり午後は川本政之助氏来られ信仰上(祈祷)に付き談話せり大に益する所ありし夜は又湊兄と信仰上に就き談話せり余ハ信仰の鈍き事を大に感ぜり

二十六日(木曜) 午前七時起床、聖書、祈祷、肉体療養其より上の丸へ牛乳飲みに行き其より明石公園内を散歩して十時過ぎ私立明石幼稚園に行き保育の有様を縦覧せし小児の容顔を見て大に学ぶ所ありし午後は休眠し又上の丸に行き松村竹夫君を訪ねて談話し夜は山岡光太郎君を訪ねて談話し又降□たの姉の病氣を訪ね其より帰宅山岡君も同伴又鈴木武君来訪され十一時迄談話し武田貞庸君も来訪され十二時に至る就眠

二十七日(金曜) 午前七時起床、聖書、祈祷、肉体療養今日ハ雨天なり午前上の丸に行き牛乳を飲み帰宅其より吉野君内田君も来られ囲碁又は談話をなしたり夜は木村成喜君の宅に行き孤児院の事業の談話をなせり○木村成喜君ハ嘉永二年十一月廿五日生にして明治六年より小学教員を務め居らる明治十二年二月頃気管支加答児を患へられ遂に肺結核となり尔来今日に至るまで時々発作す然れども既に病勢挫けて肺部固まり居れり○山岡光太郎君ハ明石高等小学校首座教員を務め居らる未だ十分の症候なしと雖も肺結核の初期の如し

二十八日(土曜) 午前七時起床、聖書、祈祷、肉体療養午前八上の丸へ行きしのみにして別になす事なし午後は休眠をなし又運動し

夜は運動をなせり

二十九日(日曜) 午前七時起床、聖書、祈祷、安息日学校に列して聖書を学び其より上の丸へ行き又木村成喜君の宅に行き昼餐の饗応に逢ひ種々信仰上教育上社会上の談話をなし午後は上の丸の集りに行き其より浦木君の許にて信仰上の談話をなし晚餐の饗応に逢ひ夜は教会堂に行き川本牧師の説教を聞けり祈祷に付き一疑問胸中に横はる又我儕が奇蹟力を主より受くる事に付き未だ信ずる能はざる所あり願くは主よ祈祷と奇蹟力につき主の聖旨を示し玉へアーメン

三十日(月曜) 午前七時起床、聖書、祈祷、喫飯其より薬を服用し上の丸に行き牛乳を飲み午後一時五十四分汽車にて岡山孤児院に行き夜ハ役者諸氏と談話せり

三十一日(火曜) 今日ハ朝より晩に至るまで或ハ丹羽氏と震災孤児院及震災伝道の模様の談話をなせし或ハ石井兄と談話し或ハ女学雑誌を読みたり又咳嗽喀痰多し